

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072900337		
法人名	有限会社 大原ウエルフェア		
事業所名	グループホーム 大原苑		
所在地	福岡県小郡市大板井391-36 (電話) 0942-73-1218		
自己評価作成日	平成 24 年 1 月 10 日	評価結果確定日	平成 24 年 2 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

保育園児との交流で利用者が和む時間を持つことができ、また、菜園の収穫野菜を食事に取り入れて、季節を感じてもらっています。利用者の穏やかな生活を支援することに重点をおき、できるだけ寄り添って関わるように心がけています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 24 年 1 月 30 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は小郡駅や市役所など公共施設が散在する住宅街に位置し開設され8年目である。利用者の多くは地元の出身者で、職員も開設当時から勤務者も多く、利用者とも親しく和気あいあいとし穏やかである。近隣人から頂いた野菜や菜園で収穫物等を食事に取り入れる等、家庭的な雰囲気や穏やかな日常生活を過ごしている。近隣の保育園児との交流も深く、お互い充実感をもたらしている。「一人ひとりを大切にし・・・向かいのおばあちゃん、おじいちゃんと輪になって・・・」との理念を掲げ、地域や事業所の行事等に積極的に交流している。事業所は利用者や家族、職員などの率直な意見や要望を聴いたり、勤務のシフト作りなど働きやすい明るい環境作りをしている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や食堂に理念を掲示し、会議前に職員全員で唱和している。何か問題が生じる事に、理念を実践出来ているか思い返し、反省し努力している。職員全員が常にこの理念を念頭に置き、毎日の介護業務に取り組むようにしている。	事業所理念として「一人ひとりを大切に・・・」と独自の理念を作っている。利用者が地域の中で健やかに生活を送ることが出来るよう、地域との交流について事業計画に盛り込み、管理者と職員は日常的に理念の共有と実践に向けて話し合い、職員会議時に理念を唱和し、日々ケアのサービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の清掃に参加したり、地域の行事に招かれ、地域の方達と交流をしている。また、散歩などで積極的に挨拶をし、親交を深めるようにしている。	町内会に加入している。隣の保育園と合同で誕生会を開催したり、園児のお遊戯会に参加したり、積極的に交流している。また、地域の行事に参加したり、事業所行事では餅つき大会や避難訓練、敬老会等を催し、家族や運営推進委員、地域の人々など多くの参加がある。近隣の人達から野菜を頂いたり、事業所の行事開催には地域住民に声かけしている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での相談や、入居申込の時など、親身になって話を聞き、より良い方法やアドバイスなど出来る限りの支援をしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議においては、毎回利用者の状況を話し、意見交換をしている。色々な質問や地域の老人の問題など話題も多く、勉強になる。管理者はそれを全職員に報告し、サービスの向上に繋がるようにしている。	運営推進会議は2カ月に1回開催しており、サービスの利用状況や評価への取り組み等を報告している。「カーテンを防災に変える」、「防災訓練時には地域住民の参加を呼びかける」、「防災マニュアルについて」等、会議で委員から出された意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所内で解決出来そうにない問題や相談があれば、地域包括支援センターや市介護保険課にすぐに連絡して、アドバイスや協力をお願いしている。	市とは日頃から連携を図っており、お互いに相談できる関係を築いている。市からの要請で、管理者が認知症サポーターを育成するための、キャラバンメイトの講師として講演をする等、市とは協力関係を築いて地域に貢献している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていない。身体拘束排除マニュアルに基づき、年に数回の勉強会を開き、職員全員が周知するように徹底している。	日中は、居室・玄関は施錠していない。玄関には鈴をつけている。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添い等をしている。近所の人にも見守り、声かけや連絡してもらえる関係を築いている。全職員には内部研修をしている。テキスト・研修記録・報告書などがある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部での研修に参加したり、事業所でも年に一度勉強会を開き、職員全員で、周知している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、職員全員が介護従事者として良く理解をするように勉強している。年に一度の家族会において、成年後見制度の説明をし、必要な人には活用できるように支援をしている。	制度に関し利用者・家族には契約時に説明している。年に1回の家族会議には成年後見制度について説明している。全職員は年に1回、内部研修で学ぶ機会が設けられている。テキスト・パンフレット・研修記録などがある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約は納得あつての署名捺印であり、十分な説明をし、理解をもらっていると思う。改定等は、家族ごとに丁寧に説明をし、理解してもらっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や、第三者委員会への苦情申し立てなど、玄関に掲示している。家族面会時には、気楽に意見が言えるような雰囲気作りをし、意見や要望など尋ねるようにしている。出た意見や要望や苦情は、職員全員に報告し、対処するようにしている。	家族会を年に1回開催している。また、家族代表が運営推進委員会に出席しており、意見や要望、苦情を述べる機会はある。家族の来訪時には意見を聴くように声かけに努めている。部屋に滑りどめマットを設置してほしい、居室での過ごし方について等家族から出された意見は運営に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議の時に、意見や提案など聞き、職員全員で話し合いをし、内容によっては、すぐに実行するようにしている。いつでも気軽にそれぞれの思いが言えるように、また、聞くようにしているつもりである。	自己評価の項目を全職員に割り当て、その意見を管理者が集約し作成している。年1回、施設長が職員と個人面談をする等、職員が意見や提案を言いやすい環境をつくっている。洗濯物干し場や各ユニット間に食事搬入時の降雨に備えて外屋根を設備するなど職員の気づき等を運営に反映している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、その都度、管理者や職員と気軽に接し、意見や要望も聞き入れ、できる限り対処している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	応募してきた人は、ほとんど来てもらって面接をしている。職員には仕事だけでなく、息抜きも必要なので、休み希望を聞いて、シフトを組んでいる。	採用選考では、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所は勤務しやすいシフトづくりなどに力を注ぎ、職員はいきいきと働いている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に一度、勉強会をしている。毎月の会議でも、必ず、職員全員に利用者に対する言葉使いや態度など、意見を出し合い、話し合っている。	管理者は特に利用者の尊重に力を注いでおり、月1回の職員会議で利用者に対する言葉使いや態度などを話し合っている。年1回勉強会を行い、理解を深めており、テキスト・研修記録・報告書などがある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番で研修に参加し、資質向上をする。毎日の介護の中で、気が付いたことは、その場で、意見を言ったり、指導をしたりしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回ある小郡三井地区介護保険研究会の施設部会やケアマネ部会に参加し、他施設と意見交換や情報を収集している。他施設の見学や交流もたまにある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とよく話しをする、話を聞く事を心掛けている。また、表情など見落とさないように、十分配慮する。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には、必ず話しをして、意見や要望は聞き入れ、次回の面会時には、その結果についても報告をする。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を踏まえ、本人家族が納得するサービスができるようにする。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の個性や持てる能力を十分に理解し、共同生活の一員とし、会話を重視しながら、信頼関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族に相談したり、意見を聞いたり、協力を得たりしながら、本人を支援している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出も支援している。電話や手紙などもしてもらっている。	利用者がこれまで行ってきた神社への初詣等に行ったり、家族の協力を得て帰宅したり、また、友人等に会いに行く・訪問してもらう等、利用者のこれまでのつながりを継続できるよう支援をしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあい、楽しく暮らせるように支援している。ほとんど食堂で過ごされるので、席を決め、顔なじみになっている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先や他施設に、面会に行ったりしている。その後の経過で、再度、入所を希望される家族もいる。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望をよく聞いて、家族とも話しをしながら、納得いくようにしている。	日々の関わりの中で利用者に声をかけ、思いや希望等の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には、目の動きや表情、しぐさ等から読み取り、職員間で話し合い、本人本位の思いや意向の把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	十分に聞き取りをし、生活歴を把握し、よく理解をする。なるべく今までに近い生活が出来るように支援する。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが快適に過ごせるように、職員間で情報伝達し、状態を把握する。一日三回の申し送り等で、しっかり把握する。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族から意見を聞く。職員間でも意見を出し合い、実行している。問題があればその都度、変更・見直しもする。	本人・家族の意見や要望、日々の介護記録を基に、本人本位の介護計画を作成している。3カ月、または、利用者の状態に変化があればその都度、家族や主治医と相談しながら随時見直している。介護計画書に家族等から署名押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員が、記録に携わる。職員は、常に記録を読み返し、疑問があれば、記録者に尋ねる。他に、申し送りノートもあり、疑問や反省や注意なども書き、全員が情報を共有するようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の外出や外泊の他に、利用当初に本人が慣れるまでと家族の希望で、一緒に泊まれたり、遠方からの家族の宿泊も受け入れたことがある。入院中の居室に、ショートステイの受け入れもした。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関連の保育園との交流を定期的に行っている。地域の行事（餅つき、そうめん流し）に参加されている。小都市図書館の本を定期的に入れ替えしてもらっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や定期訪問診療の時、家族に意見や希望などを含め、本人の訴えを重視しより良い医療を受けるようにしている。受診には家族や職員が、訪問診療には看護師が付き添っている。	利用者・家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している。かかりつけ医と連携を密にし、情報を共有し、家族等と受診時の通院介助の方法、伝達の方法も話し合っ合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のケアの中で、気付いたこと変化など、看護師と連携し、その人にあつたケアを心掛けている。受診時も支援をしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には必ず付き添い、家族とともに治療方針などを聞き、本人の早期退院のため面会し、相談員、医師、看護師との連携を深め、情報交換している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、かかりつけ医と相談しながら、家族が納得をされれば、入院をすすめている。看取りについては、まだ深く取り組んでいない。	重度化や終末期に向けた、事業所の対応方針について、利用開始時に家族等へ説明を行い、同意書もらっている。利用者や家族、事業所側の状況変化に応じて、全員で繰り返し話し合いをして合意を図っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、救急車の要請や家族への連絡、急変時の対応などは、職員全員がわかるところにおき、避難訓練も定期訓練をして、安全を心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害等の避難にあたり、一人ひとりの身体状況、健康状態を把握している。定期的な訓練では、近隣の住民にその都度文書で配り知らせ、訓練に参加してもらい、施設内など見てもらっている。	非常災害に備えてマニュアルを作成し、定期的に消防署の指導の下、避難・誘導等の必要な訓練を行っている。避難訓練実施の際には、近隣に呼びかけて参加を得ている。非常用備品・食料・飲料水も準備できている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の通り、一人ひとりを大切にし、常にやさしい気持ちを持って接している。	利用者の気持ちを大切にし、傷つけないケアに心がけている。また、職員が利用者に対する言動に気を配り、馴れ合いにならないようにミーティングで意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いに寄り添えるように、日頃よりコミュニケーションをとる。言葉かけをしている。思いを聞き、話をして行く中から、自己決定に導く。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調などに注意し、本人の希望を聞き、声かけを行う。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その時の気候に合わせ、衣類等を考え、一緒に話しながら、着てもらう。散髪や毛染めなど、本人や家族の要望を聞きながら、支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮剥きや、テーブル拭きなどしてもらっている。	職員と利用者は、一緒に準備・食事・片づけを行い、同じ物を同じテーブルで介助しながら食べている。一人ひとりの好き嫌いには献立や調味に工夫しながら栄養バランスに配慮している。栄養士に半年に1回チェックしてもらっている。「パンの日」「おにぎりランチ」の日を月に数回設け、利用者の楽しみなメニューになっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量、水分量を記録し把握している。嚥下状態に合わせ、食べ易い物を提供できるよう工夫している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけをし歯磨きや義歯洗浄を行い、口腔内の清潔を保持している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムに沿って、声かけ誘導を行い、できる限りトイレでの排泄を促している。訴えない方も、様子で察知し、トイレ誘導している。	排泄の間隔や習慣を把握し、声掛け等の誘導を行い、トイレでの排泄を継続できるよう支援を行っている。オムツやパットも、利用者一人ひとり見直し、自立に向けた支援をしている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立には気をつけ、毎日体操や廊下歩行を行ったり、水分補給を促している。また、便秘がちな利用者には、医療機関に相談し、助言を受けながら、予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週3回と決めているが、利用者の体調や希望に出来るだけ沿うようにしている。夏場は、その都度、シャワー浴の提供もしている。	入浴時間の設定はあるが、利用者の希望等にあわせて、柔軟に対応して入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒否される利用者には、タイミングを図って再度声かけしたり、家族の声かけ応援を依頼する等、入浴できるように支援している。	利用者一人ひとりの希望や状態に合わせて、毎日でも入浴できるように工夫してほしい。
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調を見ながら、出来るだけ食堂などで活動的に過ごしてもらい安眠に繋げている。季節に応じた居室の温度管理もこまめに行っている。冬場は、希望に応じ、湯タンポをいれたりしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬する利用者の服用する目的や副作用、服用時期や量について理解して、飲み忘れや誤薬がないように職員間で声かけを徹底し、状態観察を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ、廊下掃除などの手伝いや、塗り絵や折り紙、習字など、コーヒータイムを入れて楽しみながらしていただけるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望で、気候の良い時は、散歩やドライブ、外食など支援している。家族にも協力してもらって、定期的に外出もされる所もある。	外出の希望を聞き、天気や利用者の体調に応じて、ほぼ毎日散歩に出かけている。買い物・外食は希望に応じて出掛けている。ドライブは四季折々に計画し、また、敬老会・運動会等イベント会場への送迎には家族の協力がある。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にて、利用者の金銭を預かっており、個々に応じた金銭の額や用途に関する相談・報告など家族に合意を得ているが、個人で、別に財布を持つことで安心されている方もある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら、本人が読み書きしたり、電話を使用することを個別に支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく暮らせるように、清潔や使い易さ、安全を心がけている。玄関や中庭には季節の花を植え、眺めることが出来る。廊下の壁には、利用者の作品や季節の花や行事等も利用者を作り、飾っている。	トイレ・洗面所は各居室にあり、個々の利用者が居心地良く過ごせるような配慮がある。中庭にはウッドデッキ、廊下の空間を活かし、ソファや椅子を置き、利用者同士で寛げる居場所を作っている。季節の花々を分け、不快な音や光もなく、換気にも配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や食堂に、一人掛けや長ソファを置き、いつでも誰でも使用が出来るようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や手紙を貼ったり、自宅で使っていたテーブルや椅子、タンスを置き、自宅で過ごしていたように暮らしていただいている。	居室には、利用者と家族の相談で、整理タンス・ソファ・テーブル・テレビ・仏壇等、また、写真や馴染みの小物を持ち込み、その人らしく安心して過ごせる居室に配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室には、手すりをつけ、各居室には利用者の身体能力に応じて、手すりの位置や、取り付けに配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が、理念を意識するよう見えるところに張り、毎月のミーティング時に全員で唱和する。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に元気な利用者を参加させている。又、近所を散歩する時、近所の方と挨拶を交わしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での問い合わせや、通りがかりに急に見学をしたいとの話があり、臨機応変に対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議までの大原苑の状況を報告したり、内部の問題点を挙げて、意見を聴いたりしている。ハード面での家族の要望も検討の段階である。又、地域の老人状況を教えてもらったり、見学の案内をしたりしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や地域包括支援センターとの連携をよくとり、地域の情報を聞くようになっている。家族対応の仕方も、参考にしている。利用者が入院した時は、ショートステイの案内もしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしないで、見守りを強化している。夜間は目の届くところで休んでもらったり、他の介助にも連れて回っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の虐待防止勉強会に参加して、全職員には発表したり、回覧したりして、意識を高めるようにしている。職員の言葉のかけ方や態度が、利用者にとってどういう思いを抱かせるか考えて行動するよう研修している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護保険課の研修に参加して、職員全員に申し送り、後は回覧で回して、利用者の必要性が感じられる時、検討するようにしています。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に納得のいくように、説明してから署名、押印してもらっている。介護保険の変更や加算変更時は随時説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時に、家族の意見を聞き、できることは改善したり、説明したり、検討する旨話したりしている。市役所への相談もあっているため、対処している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1年に1回ぐらい、代表者と職員の個人面談を行うようにしている。管理者は職員の必要な相談は、いつでも聞ける体制にして、相談があれば助言したり、検討したり、代表者に届けたりしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の結果を踏まえて、職員の希望を検討してもらっている。職員の研修や受講の援助もある。福利厚生面の援助もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たっては選べる余裕はなく、応募者を尊重して採用している。職員の勤務や休暇希望を取り入れて、仕事の都合がつくように配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員に一貫しての人権教育はしていないが、利用者に対する尊厳の思いは意識するように、申し送っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政や外部の研修案内は常にチェックして、職員のレベルを高める為に研修参加を進めている。又、内部で勉強会もしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小郡市のキャラバンメイトに参加して、同業者との交流を図り、地域の情報を得たりしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の本人の不安な気持ちを、緩和することに努める為、職員が気を付けて、孤立しないように常に側にいて見守り、話をしたりする。本人の気持ちを理解しようとする。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階から、家族の困っていることや、希望を聞き、大原苑でできることの説明をして、入居までの関係作りをつなげている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時点では、家族が疲労困憊のレベルが高く、本人としては納得いかない状況なので、家族の休養を考えることも頭に入れながら、本人を不安にさせない対応を努力している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族には本人を安心して預けられる場所としての気持ちを持ってもらい、その反面住み慣れた家を離れて暮らす本人の心細さを慰める為の援助を協力してもらうよう、お願いしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の多い家族には、日々の変化を説明したり、家族の思いを確認したりしている。たまにしか来られない家族には、随時のお便りやニュース等を送っている。ケアプラン更新時にも、電話で希望を聞いたり、サインをもらうための郵送等で連絡を取っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聞き、関係を継続できるように支援している。友人に遊びに来てもらったり、家族に友人の所へ送ってもらったり、又、ドライブで懐かしい場所を走ったりしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じようなレベルの利用者同士はよく話をされている。不穏状態の利用者は個別に対応したり、調子のいい時は一緒に歌ったり、職員と一緒に話に入って、まとまるように対応している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院で退苑された方の面会に行ったり、他の施設に入られた方の様子を見に行ったり、家族からの情報も得ている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の希望を言える人は好きなようにしていただき、希望なしの方は、いろいろなことを提供して、好みを観察している。又、家族に昔の趣味などを聞いたりしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日のコミュニケーションの中で、職員それぞれが聞き取った本人の言葉を、職員全員が共有して、本人の生活歴等の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	約半数の方は、1日の自分のペースが決まっ ていて、納得の暮らし方をされている。何も 意思が出ない方は、外の散歩をしたり、側で ゆっくり話をしたり、何か発言できる場面を 作っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に意向を聞いたり、職員の意見を聞いたり、個人記録の内容などを考慮して、ケアプランを立てている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人との会話や態度等から、意図を探ったり、異変を感知したりしている。申し送り事項や、個人記録を見て見直ししている。いつも言葉に出るのは、「迷惑かけんようにしている、なんもいらんよ」と。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まず身体の危険や調子を整えることを、主に考え、本人が希望することをできるだけ提供している。個人的に買い物に行ったり、部屋で一人で過ごしたい、目が離せない人には、職員が一人付き添って過ごす等、主治医との連携もしながら対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる行事、餅つき、そうめん流し、演芸会等、希望者をつれて行き、知り合いの方との声かけを喜ばれている。保育園との交流も月2回以上ある。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が希望される所での受診をされている。往診を希望される方は状態や薬の変更があると、家族に連絡している。精神科受診は家族と職員同行で対応しており、歯科の往診も希望でもらっている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の異変は看護師に見てもらったり、報告して、指示を仰いだりしている。看護師から病院に連絡してもらっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要な状態になったら、家族と主治医と3者で話し合い、治療の方法や期間等、家族の納得のいくようにしている。入院中は面会に行き、様子を見たり、病院の相談員に経過を聞いたりしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される時に重度化した場合の説明をして、サインをもらっている。経過を見ながら、主治医や家族と相談してどうするか、決めている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故に対しては、勤務職員が、話し合い対応する。看護師、管理者に連絡する余裕があれば、指示を仰ぐ。心肺蘇生の訓練は毎年消防署を呼んで、行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害避難訓練は年2回行っている。近所の方にも常日頃声をかけて、関係を作っており、水や非常食も準備している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホームの介護の中では、家族のように馴れ合いになってしまい、ともしれば何でも許されるような錯覚を持つことがあるので、職員の言動で気が付いたときはお互いに注意したり、たまに研修の時間を取り、意識を再確認したりしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いろいろな場面で本人の言葉をゆっくり待つように心がけている。職員の申し送りも共有し、日々の表情の変化や、精神面の異変等いつも把握しているように気を付けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	半数以上が自分の暮らし方を持っておられ、1日を希望通り過ごされている。あとの方は、日によっていろいろなメニューを提供して、自分に合うの過ごし方をされている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類選びや、外出などは自分で気に入ったものを選ばれている。訪問のカット屋さんにも希望を言われている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いの多い人にもいろいろ工夫をして出している。時々希望を取り入れて、楽しんでもらっている。下準備の手伝いやテーブル拭きなどもしてもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量のチェックは毎食している。食事の献立もバランスを重要視しており、血液検査もチェックして主治医の指示に従っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを職員が付き添ってしている。また、訪問歯科を活用して、チェックもしてもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない方は気を付けて、トイレ誘導しており、夜間も声をかけて確認している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や牛乳、バナナやイモ類等を取り入れて、自然排便を促している。毎日排便のチェックもしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ある程度の時間帯は決めているが、本人の都合を聞いたりして、入浴を支援している。一人一人ゆっくり入れるように、手伝っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時に体調を見ながら、起きる時間を考慮している。昼寝なども本人の希望の任せて、夜間によく眠ってもらうため、日中にいろいろ運動することも心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の説明書をよく読んで、副作用や症状等を確認している。飲み忘れや誤薬がないように、二人以上で再確認している。状態の変化や薬の変更は主治医と連携を取り、記録に残しており、家族にも説明している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれができることや興味のあることを職員が理解し、やる気が起こるように支援している。体調や病気を顧慮した上で、嗜好品は提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や苑外の行事を含めて、できるだけ外出ができるよう心がけている。また、家族にも協力してもらい、思い出の場所等に行ってもらっている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で管理できる方は納得できるように、されている。小口で預かっているお金は必要な時すぐ使えるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば、いつでも電話の使用や手紙を出したりの支援はしている。年賀や暑中見舞いも本人の直筆を入れて家族に出す支援もしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ洗面所は各居室にあり、共用の空間は落ち着いた雰囲気でも過ごせるように、テレビや音楽の音も配慮している。廊下には思い出の写真も貼って、楽しんでもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの座る場所も相性を考えて、少人数で話せるよう配置している。ソファも置いて、くつろいだり、昼寝ができるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の部屋は自分の馴染みの物を、置いておられ、心地よく過ごされている。家族も一緒にそこで時間を過ごされている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの自助具を利用され、自分の力で又は職員の手助けを受けながら行動されている。レベルの低下に伴って、危険と思われるものは、必要な時以外片付けたり、家族に持って帰ってもらっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない